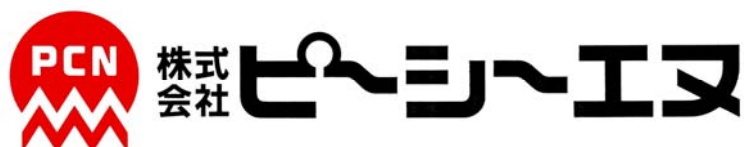


エコアクション21

2019年度 環境経営レポート

(対象期間：2019年6月1日～2020年5月31日)

2020年7月31日発行



目次

第1章 組織の概要	2
第2章 対象範囲	2
第3章 環境経営方針	3
第4章 環境経営目標とその実績	4～8
第5章 環境経営計画の内容 と 環境経営計画の取組結果の評価	8～11
第6章 実施体制	12
第7章 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、 訴訟等の有無	13
第8章 代表者による全体評価と見直しの結果	14
第9章 来年度の目標値	14



第1章 組織の概要

本社工場

No	項目	内容	
1	事業所名および 代表者氏名	株式会社 ピーシーエヌ 本社工場 常務取締役 若林英則 (E A 2 1 代表)	
2	所在地	〒952-0212 新潟県佐渡市宮川 1 0 7 番地 1	
3	環境管理責任者氏名 および担当者連絡先	環境管理責任者	製造部 部長 若林 英則
		担当者	製造部 若林 英則
		連絡先	TEL 0 2 5 9 - 6 6 - 3 1 1 0 FAX 0 2 5 9 - 6 6 - 3 1 5 1
4	事業活動の内容	固定抵抗器及び計測機器の設計・開発並びにその製造	
5	事業の規模	製品出荷数量	404,148 個 (2019 年度)
		従業員数	25 名
		述べ床面積	1,018.2 m ²
6	問い合わせ先	ホームページ	http://www.pcn.co.jp/
		メールアドレス	wakabayasi@pcn.co.jp

相模原支店

No	項目	内容	
1	事業所名および 代表者氏名	株式会社 ピーシーエヌ 代表取締役 社長 知本 均	
2	所在地	〒252-0231 神奈川県相模原市中央区相模原 4 丁目 3 番 1 7 号	
3	担当者連絡先	担当者	営業部 販売管理課 課長 鵜沼 智春
		連絡先	TEL 0 4 2 - 7 7 6 - 0 9 3 1 FAX 0 4 2 - 7 7 6 - 0 9 4 0 E-mail : sales@pcn.co.jp
4	事業活動の内容	固定抵抗器及び計測機器等の販売	
5	事業の規模	製品販売数量	292,868 個 (2019 年度) …転売品のみ
		従業員数	10 名
		述べ床面積	148.1 m ²

第2章 対象範囲

全組織，全活動。

環境経営方針

1. 株式会社 ピーシーエヌは、環境保全が最重要課題の1つであることを認識し、抵抗器などの製造及び販売を中心とした事業活動において、「佐渡の空、トキよふたたび甦れ」を夢に佐渡の自然環境を愛する企業として、経営における課題やチャンスをつまみ、環境経営の継続的改善に努めます。
2. 環境への取組の基本的方向を以下に示します。
 - 1) 二酸化炭素排出量を削減します。
 - 2) 廃棄物を削減します。
 - 3) 水使用量を維持管理します。
 - 4) 紙使用量を維持管理します。
 - 5) 化学物質使用量を維持管理します。
 - 6) 環境負荷に配慮した製品を生産及び販売します。
3. 事業活動において関連法規を順守します。

この環境方針を全員に周知し、一般にも公開します。



制定2007年 8月30日
改定2019年 4月01日
株式会社 ピーシーエヌ
技術統括取締役 北上 俊憲

第4章 環境経営目標とその実績

1. 2017年度～2019年度の環境負荷の実績

1.1 全社

No	項目	単位	2017年度	2018年度	2019年度
1)	二酸化炭素排出量（総量） 二酸化炭素の排出係数(工場:0.523kg-CO ₂ /kWh) (支店:0.474kg-CO ₂ /kWh)	kg-CO ₂	87,928	83,944	83,658
	(出荷個数当たり)	kg-CO ₂ /個	0.083	0.039	0.119
2)	廃棄物排出量（総量）	t	4.60	3.65	4.23
	(出荷個数当たり)	g/個	4.357	1.696	6.035
3)	水資源投入量（人数当たり）	m ³ /人数	8.864	8.863	9.850
4)	コピー用紙使用量（総量）	kg	437.04	425.18	381.29

※ 2019年度(44期)より二酸化炭素の排出係数は、平成30年12月27日環境省・経済産業省発表の「平成29年度実績」の調整後排出係数に基づき、本社工場は東北電力0.523(kg-CO₂/kWh)、相模原支店は東京電力の0.474(kg-CO₂/kWh)で計算した値に変更致します。また、2017年度(42期)及び2018年度(43期)の値も、本社工場は0.523(kg-CO₂/kWh)、相模原支店は0.474(kg-CO₂/kWh)で計算した値に置き換えます。

1.2 本社工場

No	項目	単位	2017年度	2018年度	2019年度
1)	二酸化炭素排出量（総量） 二酸化炭素の排出係数(工場:0.523kg-CO ₂ /kWh)	kg-CO ₂	78,776	75,736	75,418
	(出荷個数当たり)	kg-CO ₂ /個	0.132	0.148	0.185
2)	廃棄物排出量（総量）	t	2.24	2.36	3.37
	(出荷個数当たり)	g/個	3.599	4.607	8.237
3)	水資源投入量（人数当たり）	m ³ /人数	8.75	8.86	10.35
4)	コピー用紙使用量（総量）	kg	234.61	224.93	219.80

1.3 相模原支店

No	項目	単位	2017年度	2018年度	2019年度
1)	二酸化炭素排出量（総量） 二酸化炭素の排出係数(支店:0.474kg-CO ₂ /kWh)	kg-CO ₂	9,152	8,209	8,240
	(出荷個数当たり)	kg-CO ₂ /個	0.020	0.005	0.028
2)	廃棄物排出量（総量）	t	2.36	1.29	0.87
	(出荷個数当たり)	g/個	5.337	0.786	2.962
3)	水資源投入量（人数当たり）	m ³ /人数	9.20	8.87	8.56
4)	コピー用紙使用量（総量）	kg	238.43	200.25	161.49

2. 基準値と2019年度の環境経営目標と実績

二酸化炭素の排出係数 (工場:0.523kg-CO₂/kWh)
(支店:0.474kg-CO₂/kWh)

2.1 全社 ※1

No	項目	基準値	目標実績	2019年度	2020年度	2021年度
1)	二酸化炭素排出量の削減(総量) ※2	2018年度実績値	目標	83,105 kg-CO ₂ (-1%)	82,266 kg-CO ₂ (-2%)	79,798 kg-CO ₂ (-3%)
		83,944 kg-CO ₂	実績	83,658 kg-CO ₂ (-0.34%)	—	—
2)	廃棄物の削減(出荷個数当たり) ※3	2015年度実績値	目標	2.294 g/個 (-1.8%)	2.287 g/個 (-2.1%)	2.280 g/個 (-2.4%)
		2.336 g/個	実績	6.035 g/個 (+158.3%)	—	—
3)	水使用量の維持(人数当たり) ※4	2018年度実績値	目標	8.863 m ³ /人数 (0%)	8.863 m ³ /人数 (0%)	8.863 m ³ /人数 (0%)
		8.863 m ³ /人数	実績	9.850 m ³ /人数 (+11.14%)	—	—
4)	コピー用紙使用量の維持(総量) ※5	2015年度実績値	目標	493.36 kg (0%)	493.36 kg (0%)	493.36 kg (0%)
		493.36 kg	実績	381.29 kg (-22.7%)	—	—
5)	化学物質使用量の削減目標(有機溶剤使用量の維持)(出荷個数当たり) ※6	2018年度実績値	目標	0.7483g/個 (0%)	0.7483g/個 (0%)	0.7483g/個 (0%)
		0.7483g/個	実績	0.9405/個 (+25.7%)	—	—
6)	生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減(SOC管理の体制を維持)※7	2018年度不良率削減実績値	目標	0.170%	品質目標に連動	品質目標に連動
		0.255%	実績	0.074% (-56.5%)	—	—

※1 グリーン購入の推進(古紙含有紙使用)

エコアクション2.1ガイドライン2017年版より、グリーン調達が必須取組項目から除外されたことから、2019年度(44期)より取組項目から除外しました。

※2 二酸化炭素排出量の削減(総量)

2019年度(44期)より、平成30年12月27日環境省・経済産業省発表の「-平成29年度実績-」電気事業者別排出係数の調整後排出係数に基づき、本社工場は東北電力の0.523(kg-CO₂/kWh)、相模原支店は東京電力の0.474(kg-CO₂/kWh)で計算した値とします。

目標値を達成した2018年度(43期)の値を上記の各電気事業者別排出係数で換算し、基準値としました。

※3 廃棄物の削減(出荷個数当たり)

2019年度(44期)目標値は、引き続き、2015年度(40期)に設定した目標値とします。

※4 水使用量の維持(人数当たり)

2019年度(44期)目標値は、2018年度(43期)の実績値とします。

※5 コピー用紙使用量の維持（総量）

2019年度(44期)目標値は、引き続き、2015年度(40期)に設定した目標値とします。

※6 化学物質使用量の削減推進

2019年度(44期)目標値は、2018年度(43期)の実績値とします。

※7 生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減（SOC管理の体制を維持）

2019年度(44期)目標値は、ISO9001品質目標に連動した値とします。

2.2 本社工場

二酸化炭素の排出係数（工場:0.523kg-CO₂/kWh）

No	項目	基準値	目標 実績	2019年度	2020年度	2021年度
1)	二酸化炭素排出量の削減（総量）	2018年度実績値	目標	74,979 kg-CO ₂ (-1%)	74,221 kg-CO ₂ (-2%)	71,995 kg-CO ₂ (-3%)
		75,736 kg-CO ₂	実績	75,270 kg-CO ₂ (-0.6%)	—	—
2)	廃棄物の削減 (出荷個数当たり)	2015年度実績値	目標	2.324 g/個 (-1.8%)	2.317 g/個 (-2.1%)	2.310 g/個 (-2.4%)
		2.367 g/個	実績	8.237 g/個 (+248.0%)	—	—
3)	水使用量の維持 (人数当たり)	2018年度実績値	目標	8.863 m ³ /人数 (0%)	8.863 m ³ /人数 (15.1%)	8.863 m ³ /人数 (15.5%)
		8.863 m ³ /人数	実績	10.346 m ³ /人数 (+16.7%)	—	—
4)	コピー用紙使用量の維持（総量）	2015年度実績値	目標	246.93 kg (0%)	246.93 kg (0%)	246.93 kg (0%)
		246.93kg	実績	219.80 kg (-11.0%)	—	—
5)	化学物質使用量の維持 (出荷個数当たり) ・・・担当:本社工場 ワーキンググループ	2018年度実績値	目標	0.7483g/個 (0%)	0.7483g/個 (0%)	0.7483g/個 (0%)
		0.7483g/個	実績	0.7438/個 (-0.6%)	—	—
6)	生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減（SOC管理の体制を維持）	2018年度不良率削減実績値	目標	0.170%	品質目標に連動	品質目標に連動
		0.255%	実績	0.071%	—	—

2.3 相模原支店

二酸化炭素の排出係数(支店:0.474kg-CO₂/kWh)

No	項目	基準値	目標実績	2019年度	2020年度	2021年度
1)	二酸化炭素排出量の削減(総量)	2018年度実績値 8,208kg-CO ₂	目標	8,126kg-CO ₂ (-1%)	8,044kg-CO ₂ (-2%)	7,803kg-CO ₂ (-3%)
			実績	8,240kg-CO ₂ (+1.4%)	—	—
2)	廃棄物の削減 (出荷個数当たり)	2015年度実績値 2.318g/個	目標	2.276g/個 (-1.8%)	2.269g/個 (-2.1%)	2.262g/個 (-2.4%)
			実績	2.962g/個 (+27.8%)	—	—
3)	水使用量の維持 (人数当たり)	2018年度実績値 8.870 m ³ /人数	目標	8.870m ³ /人数 (0%)	8.870m ³ /人数 (0%)	8870m ³ /人数 (0%)
			実績	8.560 m ³ /人数 (-3.5%)	—	—
4)	コピー用紙使用量の維持(総量)	2015年度実績値 264.430kg	目標	264.43 kg (0%)	264.43 kg (0%)	264.43 kg (0%)
			実績	161.49 kg (-38.9%)	—	—

*1 年度は、6月～5月です。

*2 2019年度の目標は、2015年度又は2018年度を基準年とした3年計画の目標を達成するための1年目の目標値です。

2.4 2019年度の考察は、次の通りです。

- ① 二酸化炭素排出量の削減目標は未達成でした。(総量)
照明、設備の省エネが頭打ちになってきた事が原因と考えられます。
- ② 廃棄物の削減目標は未達成でした。(出荷個数当たり)
直接的な原因は、7月次と12月次に産業廃棄物と大量の紙の処分を実施した事ですが、間接的な原因は、出荷数の減少でした。
- ③ 上水道使用量の維持目標は未達成でした。(人数当たり)
11月次に発生した原因不明の相模原支店の使用量増加(通常の数値の3倍近く)と、本社工場の使用量増加が主な原因と考えられます。
- ④ コピー用紙使用量の維持目標を達成致しました。(総量)
各部門で削減が観られましたが、特に相模原支店の削減量が多く、達成に貢献しました。
- ⑤ 化学物質使用量削減の維持目標は未達成でした。(出荷個数当たり)
在庫量のタイミングの絡みで、月単位での結果が大きく左右され、結果的に未達成でしたが、ほぼ昨年並みの結果が得られました。
- ⑥ 生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減(SOC管理の体制を維持)の目標を達成致しました。
今期は、昨年度の未達成要因であった突発的な不具合の削減をターゲットとして活動したことにより、目標値を達成できたものと考えられます。

第5章 環境経営計画の内容 と 環境経営計画の取組結果の評価

No	環境経営目標	環境経営計画の内容	結果・評価	次年度の取組内容
1	二酸化炭素排出量の削減	昼休みに照明を消灯する。 使用していない箇所の電気を消す。 昼休みにパソコンの電源を OFF。	○	継続。
2		空調の適正化(冷房 28℃程度, 暖房 20℃程度) の徹底。	○	継続。
3		工程, 最終不良率の改善。	○	継続。
4		モールド工程(金型) 予熱の消費電力の削減。	○	継続。
5		恒温槽使用の効率化	○	継続。
6		照明器具のLED化を推進	○	継続。
7		省エネ冷暖房設備への切り換え推進	○	継続。
8	廃棄物の削減	廃プラに混在する新聞紙を分別する。	○	継続。
9		分別を推進し, 銅, アルミ等の再資源化をはかる。	○	継続。
10		製品切替(RH→FH)による成形条件見直しにて, ポットに残る樹脂量を低減。	○	継続。
11		再利用段ボール箱の社内便への使用。	○	継続。
12		使用済み段ボール箱の梱包材への再利用。	○	継続。
13		梱包材等の古新聞紙を再生利用へ。	○	継続。
14	水使用量の維持	ポスターによる節水の啓蒙。	○	継続。
15		水洗トイレのタンクへペットボトルを入れ, トイレ用水を節水する。	○	継続。
16		便器(男性)の水排出時間を短くする。	○	継続。
17	コピー用紙使用量の維持	ポスターによる紙節約の啓蒙。	○	継続。
18		プロジェクター等の使用による会議資料のペーパーレス化を推進。	○	継続。
19		電子メディア等の利用によるペーパーレス化の推進。	○	継続。
20		両面コピー及び裏紙の有効利用による紙の節約。	○	継続。

No	環境経営目標	環境経営計画の内容	結果・評価	次年度の取組内容
21	化学物質使用量の維持 (有機溶剤使用量の削減。)	使用後のハンドラップ、小分け容器及び一斗缶の蓋を確実に締める又は覆い、蒸発を防止する。	○	継続。
22		適正な洗浄(時間、量及び方法)を行い、効率的に使用する。	○	継続。
23		使用中、廃液等の識別を明確に行い、廃液混入を防止する。	○	継続。
24	生産工程の不良率を低減し廃棄物を削減(SOC管理の体制を維持)	工程及び最終検査の不良率削減(0.17%)。	○	継続。 ISO9001 品質目標に連動

※ 結果・評価欄 凡例の説明 ○：予定通り実施
△：進捗 50%以上
×：進捗 50%以下

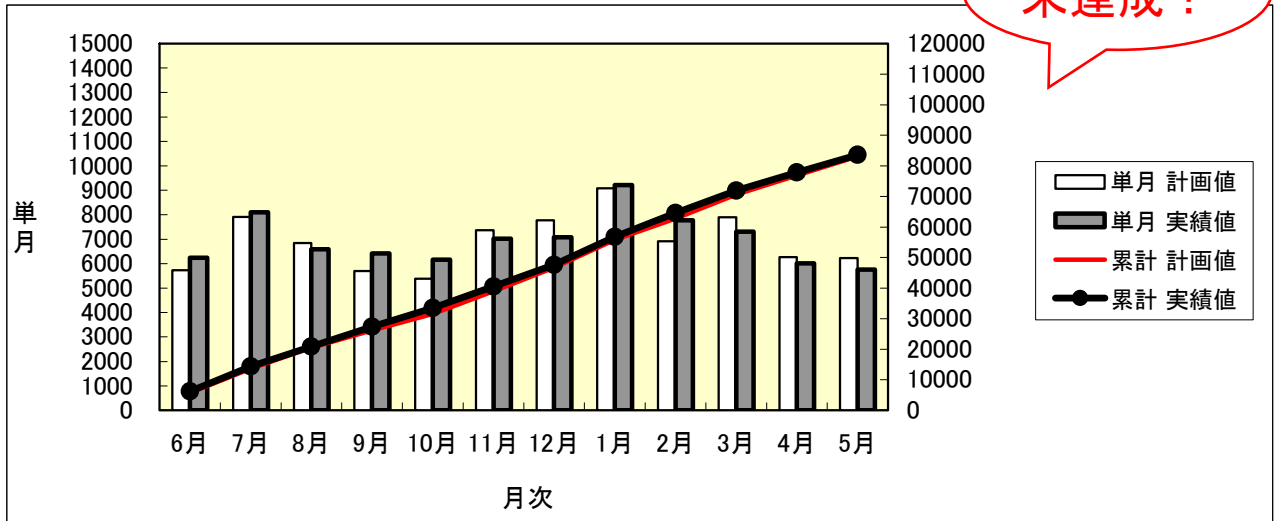


【放鳥され、佐渡の田んぼから飛び立つ朱鷺】

【2019年度 環境経営目標 達成状況グラフ】

二酸化炭素排出量の削減（総量）

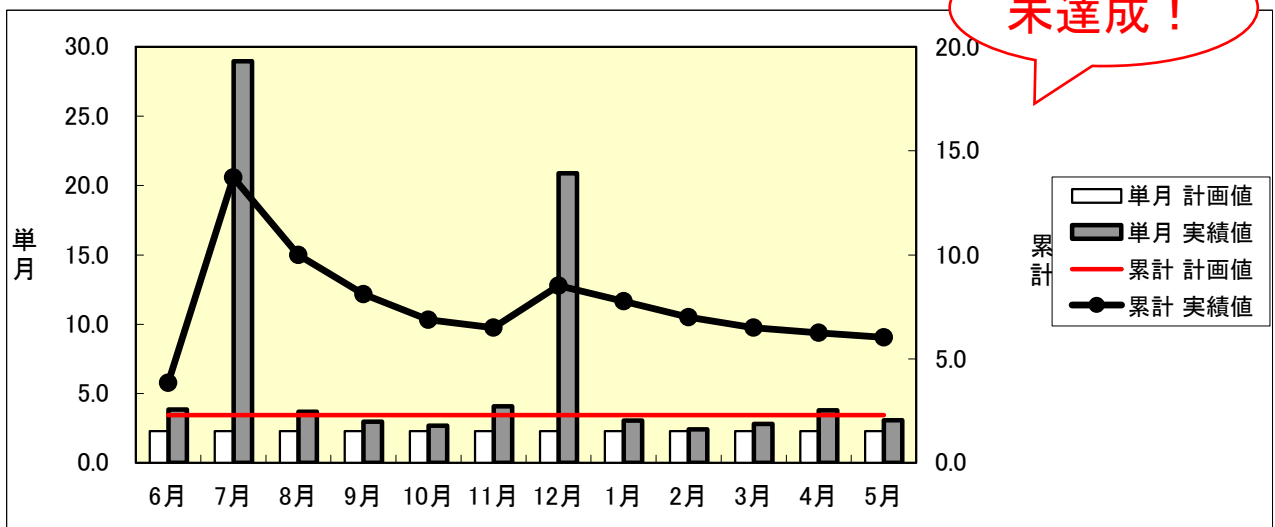
kg-CO₂



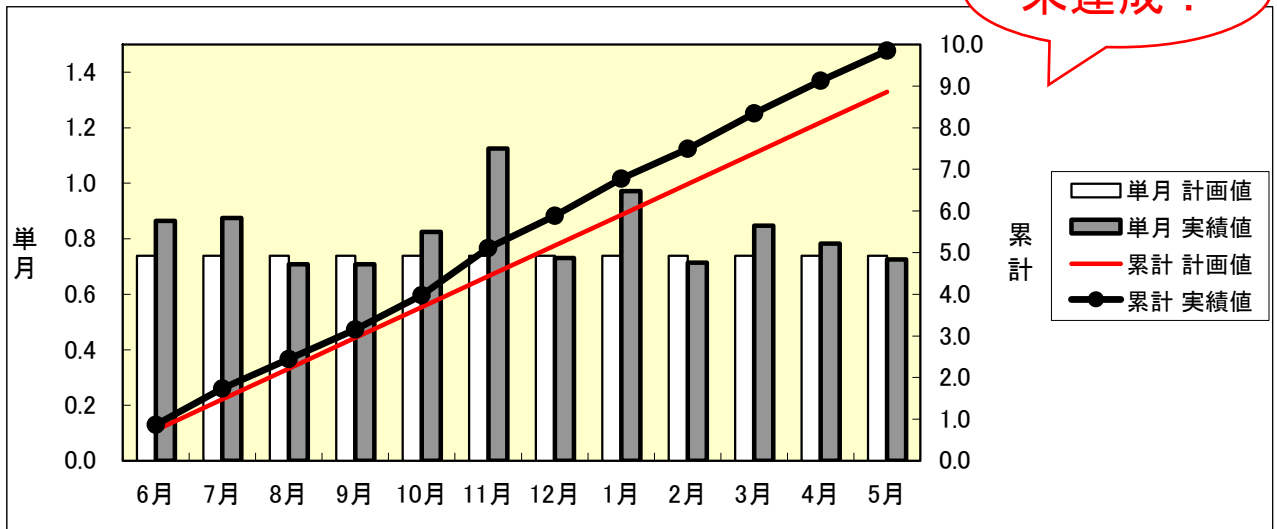
※2019年度(44期)より、平成30年12月27日環境省・経済産業省発表の「-平成29年度実績-」電気事業者別排出係数の調整後排出係数に基づき、本社工場は東北電力の0.523(kg-CO₂/kWh)、相模原支店は東京電力の0.474(kg-CO₂/kWh)で計算した値とします。

廃棄物の削減（生産個数当たり）

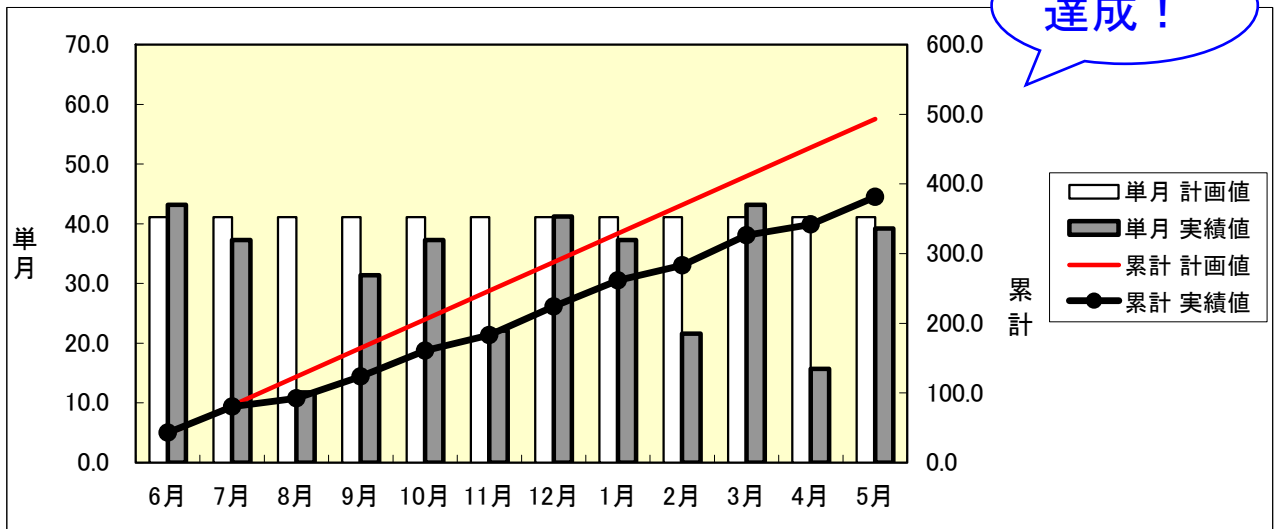
g/個



水使用量の維持(人数当たり)
m³/人数

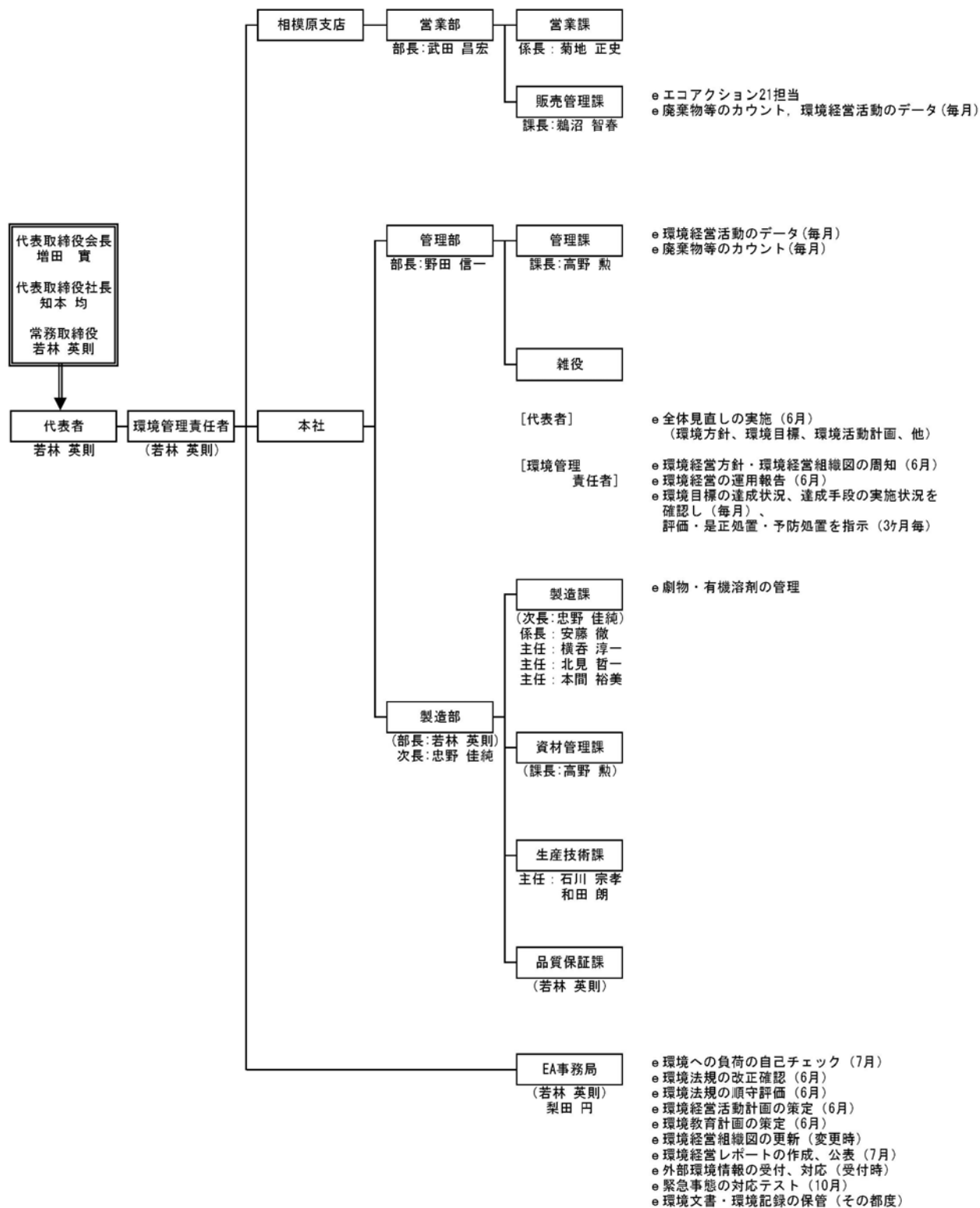


コピー用紙使用量の維持(総量)
Kg



第6章 実施体制(環境経営組織図)

環境経営組織図



第7章 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

1. 環境関連法規の順守状況を自らチェックし、違反はありません。
2. 関係当局からの違反の指摘は、過去3年間ありません。
3. 訴訟も、過去3年間ありません。

【環境関連法規一覧】

環境基本法
大気汚染防止法
フロン類の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
水質汚濁防止法
下水道法
工場立地法
騒音規制法
振動規制法
新潟県生活環境の保全等に関する条例施行規則
神奈川県生活環境の保全等に関する条例施行規則
循環型社会形成推進基本法
廃棄物の処理及び清掃に関する法律
新潟県産業廃棄物等の適正な処理の促進に関する条例
ポリ塩化ビフェニル廃棄物の適正な処理の推進に関する特別措置法
特定家庭用機器再商品化法
使用済み自動車の再資源化等に関する法律
特定化学物質の環境への排出量の把握等及び管理の改善の促進に関する法律
労働安全衛生法
労働安全衛生規則
有機溶剤中毒予防規則
毒物及び劇物取締法
消防法
危険物の規制に関する政令
佐渡市火災予防条例
相模原市火災予防条例
R o H S (R o H S 2) 指令

第8章 代表者による全体評価と見直しの結果

1. 全体評価

目標の6項目中3項目が未達成であった。水使用量以外は生産、販売数の減少が大きな要因と考えられます。来期の改善努力を行った結果によっては、目標の取組内容(換算方法)を見直す必要があると考えます。

2. 見直しの結果

- ① 環境経営方針：代表者名を技術統括取締役 北上俊憲から常務取締役 若林英則に変更を実施します。
- ② 環境経営目標：変更の必要はありません。
- ③ 環境経営活動計画：3年間の2年目として計画を変更しました。
詳細は、“第9章 来年度の目標値”を参照願います。
- ④ 緊急事態：変更の必要はありません。
- ⑤ 実施体制：変更の必要はありません。
- ⑥ その他：変更の必要はありません。

第9章 来年度の目標値

1. 二酸化炭素排出量の削減(総量)

2020年6月、増築により本社工場の床面積が11.08%増加したため、2020年度(45期)の目標値は、基準年度(2018年度)の本社工場購入電力(71,448.6kg-CO₂)を同じ比率で加算した値の2%削減した値とします。

2. 廃棄物の削減(生産・販売個数当たり)

2015年度(40期)の実績に対して2.1%の削減した値とします。

3. 水使用量の維持管理(人数当たり)

2018年度(43期)実績を維持した値とします。

4. コピー用紙使用量の維持管理(総量)

2015年度(40期)実績の維持した値とします。

5. 化学物質使用量の維持管理

2018年度(43期)実績を維持した値とします。

6. 生産工程の不良率低減し廃棄物を削減する(SOC管理の体制を維持)

工程・最終検査での不良率目標値。・・・0.160%以下とします。

以上